

眼科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	Heads-up Surgery を用いた患者頭位変換による網膜下液排液法の検討
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 藤原祥裕
担当科等	眼科
研究責任者	(職名) 助教 (氏名) 石田雄一郎
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	非該当
研究の意義・目的	裂孔原性網膜剥離に対する硝子体手術は、通常の頭位で実施する方法と原因裂孔が最下方になるように患者頭位を変換した状態で行う方法とが一般的な術式としてあります。頭位変換により原因裂孔を最下方にする方法では網膜下液を全て排液することが可能となりますが、この方法では顕微鏡の傾斜が必要となり術者の姿勢に問題が生じます。愛知医科大学病院に導入されている Heads-up Surgery(HUS)は、術者が顕微鏡を覗き込む代わりに撮影された映像を 3D モニターで見ながら手術を行うことができるため、顕微鏡の傾斜は術者の姿勢に影響を及ぼしません。今回、HUS を用いた患者頭位変換による網膜下液排液法が裂孔原性網膜剥離の網膜復位率の上昇に有用であることを確認することが本研究の目的となります。
対象となる患者さん	2019 年 4 月から 2024 年 3 月までに裂孔原性網膜剥離と診断され Heads-up Surgery を用いた硝子体手術を行った患者さん
研究の方法	術後の剥離網膜の復位を眼底診察や眼底画像検査により評価します。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2024 年 3 月 31 日
研究に用いる試料・情報	試料：なし 情報：手術動画、術前と術後の眼底画像検査の比較、等
外部への試料・情報の提供	なし
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2024 年 3 月 31 日までに下記問い合わせ先まで申し出てください。
その他	特記事項なし

問い合わせ先	愛知医科大学 眼科学医局 担当者：(職名) 助教 (氏名) 石田雄一郎 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線 22181)
--------	--